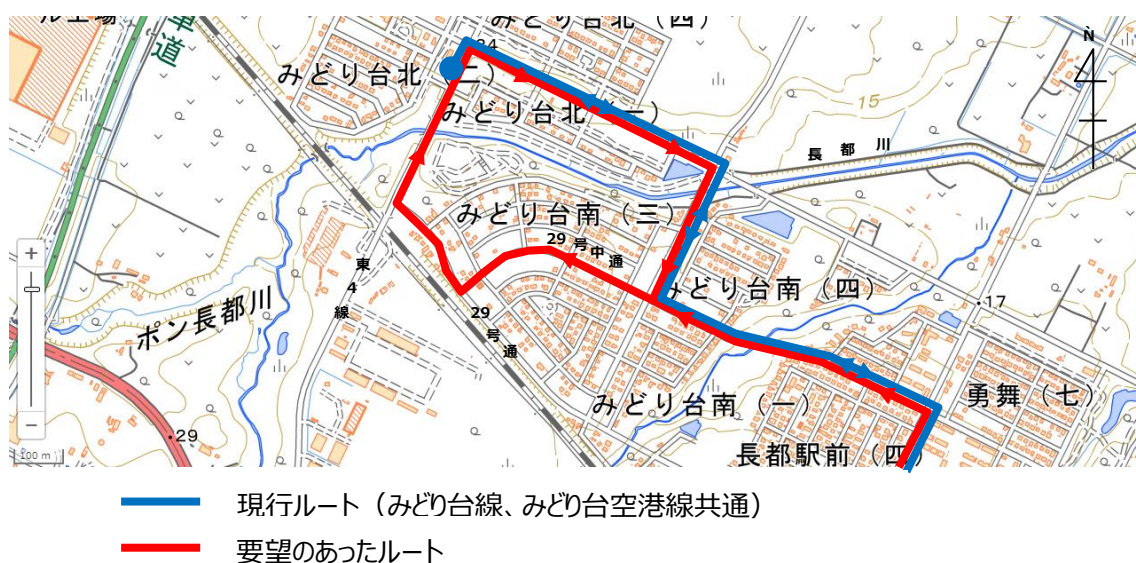


みどり台南町内会による嘆願書について

1 経過

令和4年8月5日にみどり台南町内会長から北海道中央バス千歳営業所に対し、「みどり台線」及び「みどり台空港線」の運行経路の一部変更について嘆願書の提出があり、バス事業者と協議の上、内容を検証し、9月12日開催の第2回協議会において報告し、その後、11月15日にみどり台南町内会長に対し、要望に至った経緯等について確認した。

<要望されたルート図>



2 第2回協議会（令和4年9月12日開催）での内容について

(1) 事務局の説明内容

現行の運行ルートの考え方を説明したほか、町内会から提案のあった経路案やその他考えられるルート案等との比較や利用者数、運行経費、ルートの安全性等の観点から検証を行った結果について説明。

(2) 委員の意見

「みどり台地区は、比較的若い方が多く、バス利用が進んでいない状況であり、経路変更によって運行距離が長くなり、利用者が増えなければバス事業者の収支が悪化することとなることから、現時点では、早急に運行経路を変更して対処しなければならない状況にない」、「本要望が上がってきた背景について、別の要因がないか確認すべき」との意見があった。

(3) 結果

委員からの意見等を踏まえ、町内会長に確認する必要があることから、継続協議となった。

3 みどり台南町内会長への確認について

協議会での協議結果を踏まえ、11月15日にみどり台南町内会長へ説明を行うとともに、要望に至った経緯について確認を行った。

●要望に至った経緯

令和3年度までの北陽小学校への通学方法について、みどり台北地区はスクールバスの送迎があった一方、みどり台南地区は送迎がなく、徒歩で通学していたことを発端として、みどり台北地区との不公平感が高まったことに加え、みどり台南地区には多くの住民がいるにもかかわらず、地区内に信号機や横断歩道等の設置がなく、路線バスが通れば、地区内の環境整備が進むとの意見から要望へとつながったもの。

●結果

町内会長には、みどり台小学校が開校したこと、また、利用状況やコストの観点から、現状においては、運行に係る収支を悪化させてまで早急に経路を変更することは難しいという協議会での協議内容について、理解が示された。

なお、町内会長からは、「地区内では若い年齢層が固まっており、将来的には公共交通が課題となってくることは避けられない」との意見があった。

4 今後について

千歳市地域公共交通計画では、5年に1回のサイクルで全体的なバス路線の評価・見直しを行うこととしており、その中で、みどり台地区の路線についても、社会情勢の変化や利用状況について引き続き検証を行う。